

～不妊治療と仕事の両立に関する 実態と問題点～

川東社会保険労務士事務所・KCサポート株式会社

＝季節のコラム＝

街中ではちょっと無理ですが、水辺に行くとカエルの鳴き声が聞こえる時期になりましたね。

「♪かえるのうたが…」で始まる「カエルの合唱」は、実はドイツのライン川沿い地方の民謡。昭和の初めにスイスのツインマーマン博士が玉川学園で子供達の輪唱用にと教師に伝え、その教師の訳した詞で日本中に広まったものです。日本では、知らない人を探すほうが難しいくらいですが、地方の民謡なので、ドイツではそれほど知られていないとか。

「ちょうちょ」も、もともとドイツ民謡。日本の音楽教育は、何かとドイツにお世話になっているようです。

(事務局:鹿島)

★ご案内★

人事労務等のご相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

☎ 06-6941-7113
fax 06-6941-7114

営業時間
9:00～18:00
土日祝休み

1、不妊治療と仕事の両立

厚生労働省が平成29年度に実施した、不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての企業および労働者に対するアンケート調査の結果が、3月に公表されました(「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査事業」の調査結果報告書)。

日本では現在、不妊治療・検査の経験がある、もしくは予定している人の割合は14%にのぼり、不妊治療をしたことがあると回答した人の中で、仕事との両

立ができずに退職した人は16%に上っています。ただ、半数以上の企業が、不妊治療を行っている従業員の把握ができておらず、また、不妊治療に特化した制度がある企業は、19%にとどまっています。

人材確保という意味でも今後は、職場での理解を深め、両立しやすい環境を整えることで、企業の人材の確保・定着にもつながると思われます。

2、両立が難しい理由と、企業の制度

両立が難しいと感じる理由として、「通院回数が多い」「精神面での負担が大きい」「待ち時間など通院時間にかかる時間が読めない、医師から告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しい」などが挙げられています。

また企業が制度として実施しているのが、「不妊治療のための休暇制度」や「費用の助成制度」などです。

ただし、実際には職場に不妊治療を行っていることを伝えたくない人も多く、理由としては、「周りに気づかいはしてほしくない」ことや、「不妊治療が上手くいかなかったときに職場に「いづらい」などが挙げられています。

制度があっても、使いづらいものであれば、意味がありませんね。

そういう意味でも、風通しの良い職場づくりがまず大切なのでは、と思います。



3、おすすめ本

今月は、「億男」(著者:川村 元気 出版:文春文庫)をご紹介します。

宝くじが当たった男性のお話です。お金はあったほうがいい…でも、それだけでいいの?というように、小説ですが、お金と幸せについて考えさせられます。

映画化も決定している作品ですので、映像も楽しみです。



★事務所・所長の近況★

<5月>

・GW、皆さんは有意義に過ごされましたでしょうか?私は、事務所と自宅を整理し、必要でないものを処分しました。(断捨離です)要らないものって、本当にたくさんあるんです。やっているうちに、どんどん増えていきました。処分するのは結構大変でしたが、終わるとすっきり!!気持ちが良いです。

・できれば、この状態を維持したいのですが、やはりいろんなものが増えていきそうです。

※ 当事務所が保有する個人情報、当事務所が販促サービスでの利用を目的とし、その他には個人情報を利用いたしません。今後このようなサービス(DM等)が不要な場合には、お手数ですが、当事務所までご連絡下さいませようお願い致します。

★ 所長(かわひがし)プロフィール ★

大阪府守口市出身。生粋の大阪人です。

年齢はナイショですが、機動戦士ガンダムの世代(ファースト)です。(大体分かりますね)

前職は、病院で臨床検査技師を10数年しており、途中で社会保険労務士をめざし、勉強してやっと資格をとりました。

事務所を守口市に構えてから、1年後には、大阪市中央区に移転し、現在の事務所に8年ほど前に移っております。

独立してからは10年以上になりましたが、少しは貫禄(?)がでてきてもいいのと思う今日この頃です。(まだまだですが)

これからも、皆様のご相談に親身に乘らせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

事務所へのアクセス



天満橋(地下鉄谷町線・京阪線)より徒歩6分

〒540-0036

大阪市中央区船越町2-1-5 吉見ビル2F

併設 KCサポート株式会社